はしがき

本書は『東京大学総合研究博物館動物部門所蔵 魚類標本リスト(1)』(2022)に次ぐ第2号である。2021 年 5 月から現在にかけて、第一編者を中心として、研究事業協力者や外部研究者、ボランティアによって東京大学総合研究博物館動物部門所蔵の魚類標本(ZUMT: The Department of Zoology, The University Museum, The University of Tokyo)コレクションの整理作業が進められている。

第 1 号では、10 報の論文により、ZUMT に収蔵された 1 目および 11 科の標本目録とウナギ目のタイプ標本目録を報告した。第 2 号においては 17 報の ZUMT 標本目録(ギンザメ目、アカマンボウ目、マトウダイ目、イボダイ亜目、ウナギ科、ミズウオ科、コモチサヨリ科、キホウボウ科、シロカサゴ科、シイラ科、ギンカガミ科、ハチビキ科、マツダイ科、キンチャクダイ科、マンジュウダイ科、ミシマオコゼ科、イボダイ科、ドクウロコイボダイ科、カマス科、クロタチカマス科、ノコギリハゼ科)および 2 報(Part 2:ヌタウナギ目、ネズミザメ目、メジロザメ目、ツノザメ目、シビレエイ目、ガンギエイ目、ギンザメ目、チョウザメ目;Part 3: ニシン目、ソコギス目、ニギス目、ワニトカゲギス目、コイ目、ヒメ目、タラ目、アシロ目)のタイプ標本目録を掲載することができた。また本号には、これまでの目録作成の過程で明らかになってきた ZUMT 標本の歴史および標本に関わった人物に関する知見をまとめた論文も掲載した。

ZUMT 標本の概要や歴史については、第 1 号の「はしがき」および本号掲載の論文で述べたため、詳しくは繰り返さない。第 1 号、第 2 号と続いた私たちの活動により、ZUMT コレクションの活発な利用へと繋がり、新たな学術的発見へと繋がっていくことを切に願う。なお、標本整理作業は現在も引き続きすすめられており、今号に掲載できなかった分類群の標本目録については次号以降にて掲載する予定である。

本プロジェクトの推進および本目録の出版に際しては多くの方々のご協力を得た。東京大学総合研究博物館の研究部教員、事務職員の方々には様々な御支援をいただいた。特に、2020 年の標本庫の全面的改修工事に際しては、米村裕次郎副課長をはじめ博物館事務職員の方々の多大なるご尽力をいただいた。本プロジェクトは、平成 11–令和 4 年度の本学総合研究博物館プロジェクト研究経費、公開利用経費による援助を受けて実施された。藍澤正宏氏、坂本一男氏、畑 晴陵氏、和田英敏氏、小林大純氏、手良村知功氏、日比野友亮氏には、標本の観察や同定、管理・維持作業に加え原稿の執筆、確認をしていただいた。ボランティアの宮下雄博氏、尾形比呂哉氏および東京海洋大学の阿部意央太氏、藤原咲紀氏、飯沼 藍氏、齋藤 舞氏、髙橋あゆみ氏、東京大学の深谷真央氏、伊藤想也氏には ZUMT 標本の管理・維持作業を手伝っていただいた。これらの方々に、この場を借りて、厚くお礼申し上げたい。最後に、ZUMT 標本が今日に至るまでに多大な貢献をいただいた故富永義昭氏に深い感謝の意を示したい。

2022 年 5 月 20 日

小枝圭太 [1,2], 上島 励 [3,4]
[1] 東京大学総合研究博物館 マクロ先端研究グループ特任助教
[2] 現在の所属:琉球大学理学部海洋自然科学科生物系 助教
[3] 東京大学総合研究博物館 動物部門主任
[4] 東京大学大学院理学系研究科 生物科学専攻准教授